

首都圏大規模水害と都民の意識

—2022 年東京都民調査から—

Large-scale Flood Inundation in the Tokyo Metropolitan Area and Attitudes toward Disaster Prevention: From the 2022 Tokyo Metropolitan Survey of Citizens

内田充紀 Mitsuki Uchida 安本真也 Shinya YASUMOTO 富澤周 Shu TOMIZAWA
葛西優香 Yuka KASAI 関谷直也 Naoya SEKIYA

目次

1. はじめに
 - 1.1 背景と目的
 - 1.2 調査の概要
2. リスクの認識
 - 2.1 水害リスクの認知
 - 2.2 被害想定 of 印象
3. 水害への備え
 - 3.1 家庭での水害対策
 - 3.2 避難の想定
 - 3.3. ハザードマップ
4. まとめ

附属資料：単純集計結果（該当部分の抜粋）

キーワード：首都圏大規模水害、浸水想定、江東5区、広域避難

執筆分担

内田充紀 東京大学大学院学際情報学府修士課程 1～4
安本真也 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター
富澤 周 東京大学大学院学際情報学府修士課程
葛西優香 東京大学大学院学際情報学府修士課程
関谷直也 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター

1 はじめに

1.1 背景と目的

東京都東部にある江東5区（墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区）は、その大部分がゼロメートル地帯となっており、水害に対して脆弱な地域となっている。明治43年の洪水や昭和22年のカスリーン台風などといった大きな水害に見舞われ、昨今でも大規模水害の発生が危惧されている。

江東5区では、大規模水害による犠牲者を出さないことを目的に「江東5区広域避難推進協議会」を中心に関係機関と連携して検討を進め、平成30年8月22日に、「江東5区大規模水害ハザードマップ」及び「江東5区大規模水害広域避難計画」を発表した（江東区ホームページ [online] <https://www.city.koto.lg.jp/057101/bosai/bosai-top/topics/20180822.html>）。

江東5区住民の広域避難を実現するための活動が進んでいるが、江東5区に住む住民や東京都に住む人々がどのように水害について認識しており、水害に対してどのような意識を持っているのかについて、住まいの水害リスクとの関係性も検討しながら明らかにしていく。

1.2 調査の概要

本調査では、東京都民の地震・水害・火山の被害想定に関する意識ならびに住民の考える災害の被害想定認知体系を明らかにすることを目的として実施した調査を用いる。本調査論文では、この調査のうち、水害に関わる部分について報告する。その概要は表1.2.1の通りである。

表 1.2.1 調査概要

調査対象	東京都市区ならびに西多摩郡在住者 (NTT コムリサーチのパネル)
調査方法	WEB 調査
第1波「東京都民の地震被害想定などに関する意識調査」	
有効回答	5,672 サンプル (予備サンプル含む)
調査期間	2022年3月4日～28日
第2波「首都直下地震時などの東京都民の防災行動に関する調査」	
有効回答	4,478 サンプル (第1波と同一パネル, 期間内で可能な限り回収)
調査期間	2022年3月28日～4月21日

調査は NTT コムリサーチのインターネットモニターパネルを用いて実施した。設問数の都合上、2波に分割して行った。対象者は東京都民であり、島しょ部を除いた、23区、26市ならびに西多摩郡（瑞穂町・日の出町・檜原村・奥多摩町を合わせた区域）の合計50市区町村に対して、性年代均等割付を行った。1市区町あたり、性別（男女）×年代（20～60代）の10セルあり、セルごとに10サンプルずつ収集した。その結果、第1波では5,672サンプルが有効回答として得られた（予備サンプルを含む）。ただし、一部の地域については未達の割付がある。その後の第2波では、第1波の回答者に対して調査を行い、第1波の78.9%である。4,478サンプルが有効回答として得られた。これらを本研究の分析対象とする。

2 リスクの認識

2.1 水害リスクの認知

(1) リスクや被害想定の全体的な認知度

まず、内閣府が荒川・利根川が大規模にはん濫した際の被害想定を公表していることを知っているか問うた（図 2.1.1）。3人に1人しか被害想定を公表していることを知らないということが分かった。

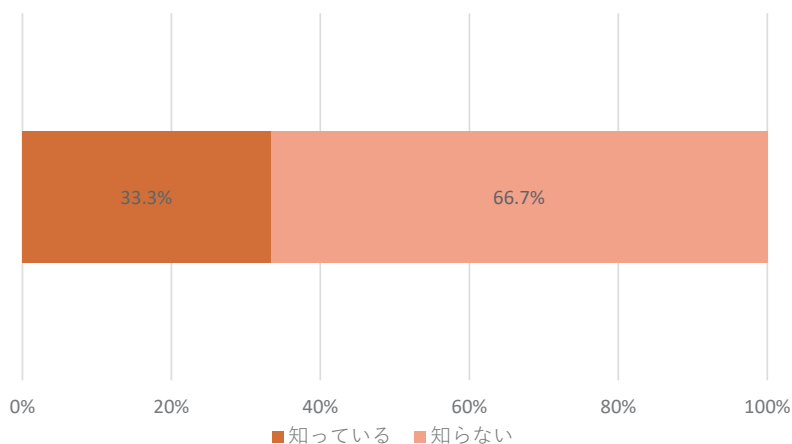


図 2.1.1 内閣府が荒川・利根川が大規模に氾濫した際の被害想定を公表していることを知っているか（N=4478）

次に、水害のリスクや被害想定、水害からの避難時に起こりうることをどれほど認知しているかを問うた（図 2.1.2）。「東京東部（墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区）

は大部分がゼロメートル地帯であること」を除いた全項目で、「知っている」という回答より「知らない」という回答の方が多結果となった。

特に「荒川の周辺河川のはん濫や堤防の決壊による被害で、2週間くらい水が引かないことが想定されていること」(26.1%)、「利根川の周辺河川のはん濫や堤防の決壊による被害で、2週間くらい水が引かないことが想定されていること」(22.2%)、「荒川首都圏広域はん濫による被害で、浸水区域内人口が120万人と想定されていること」(17.7%)、「利根川首都圏広域はん濫による被害で、浸水区域内人口が230万人と想定されていること」(15.6%)という、被害想定に関する項目は認知している人が少なかった。水害の被害想定に関して多くの人が詳しい内容を知らないという現状が明らかになった。

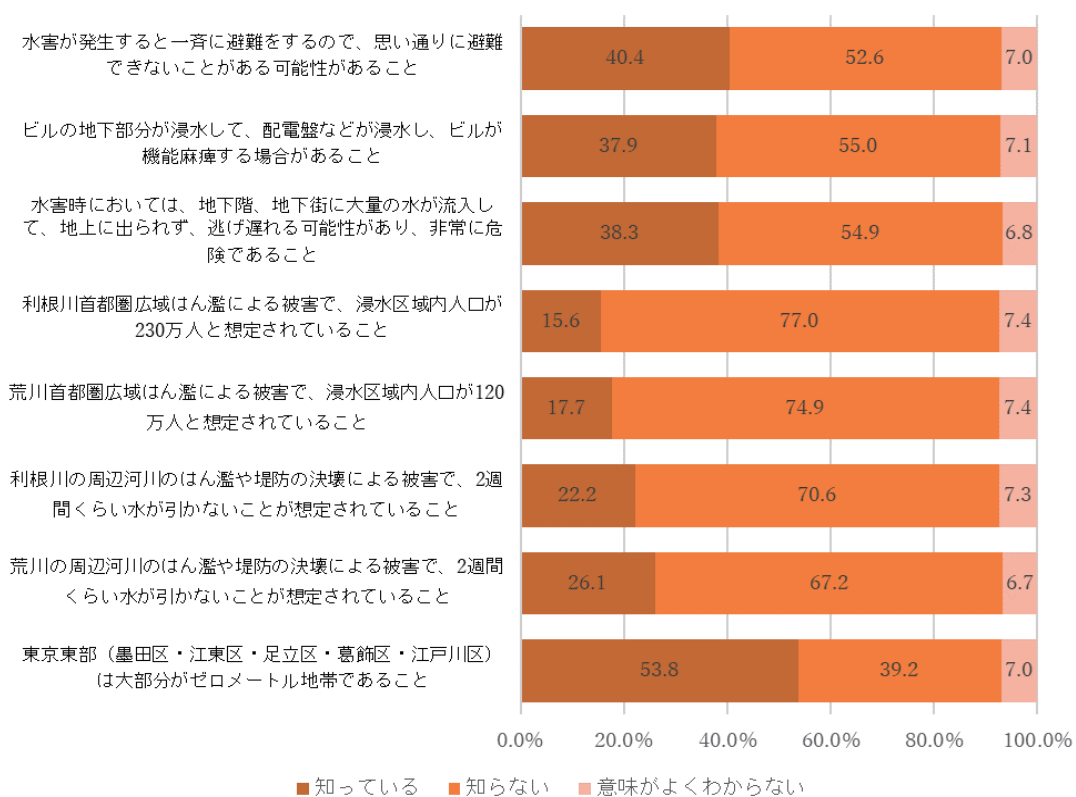
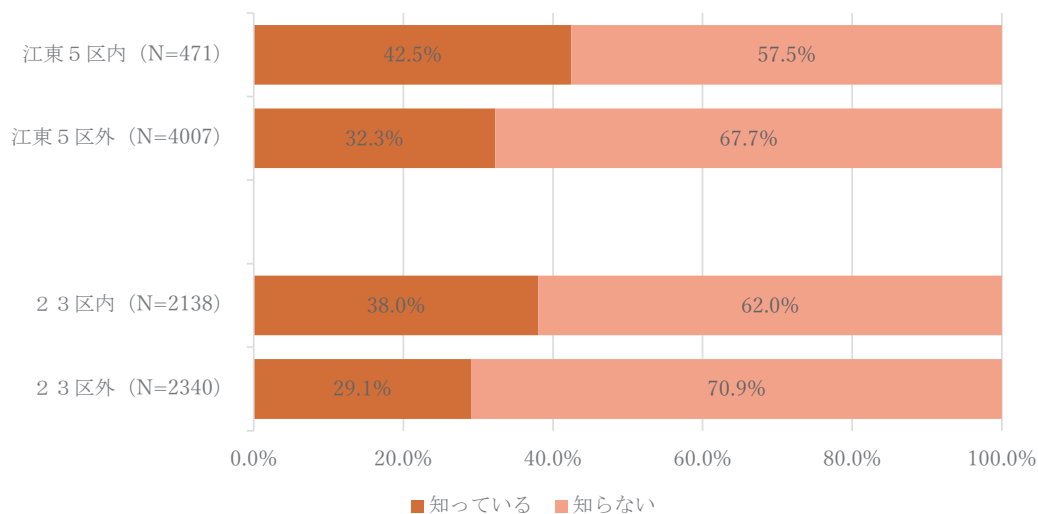


図 2.1.2 被害想定の内容等の認知度 (N=4478) (複数回答)

(2) 江東5区、23区、多摩地域それぞれでの認知度

続いて、回答者の居住地はこれらの認知度に関係性についてみていく。上の項で計った

認知度を、回答者の居住地に基づいて分けて集計し、 χ^2 検定により居住市区町村による認知度の差を検定した。江東5区とそれ以外の市区町村との比較、23区と多摩地域の比較のいずれにおいても、認知度に差があることが明らかになった（図2.1.3： χ^2 検定 $p < 0.001$ ）。江東5区や23区内の方がそれ以外の地域に対して被害想定認知度が高いといえる。



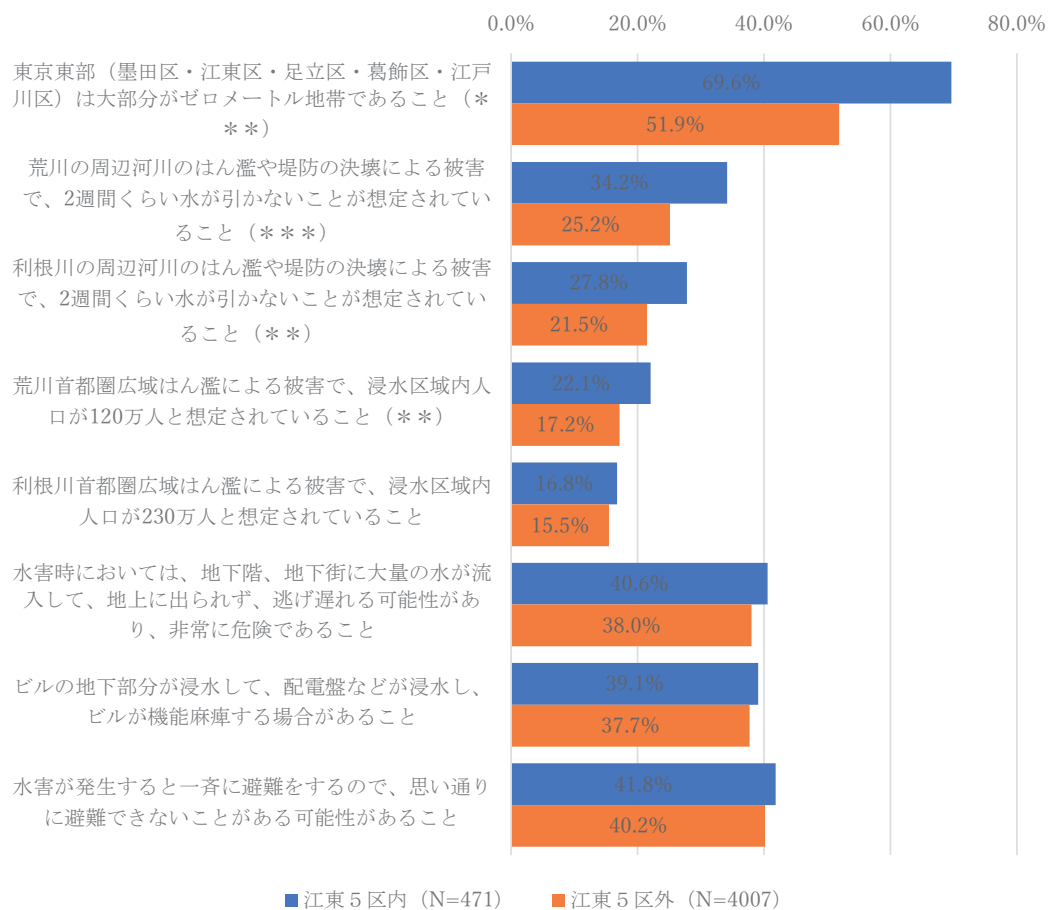
(χ^2 検定 ***: $p < .001$ 、**: $p < .01$ 、*: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図 2.1.3 内閣府が荒川・利根川が大規模に氾濫した際の被害想定を公表していることを知っているか（上：江東5区とそれ以外***、下：23区とそれ以外***）

また、被害想定具体的な内容に対する地域ごとの認知度の差についても検討した（図2.1.4、図2.1.5）。「東京東部（墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区）は大部分がゼロメートル地帯であること」（江東5区内：69.6%、江東5区外：51.9%）、「荒川の周辺河川のはん濫や堤防の決壊による被害で、2週間くらい水が引かないことが想定されていること」（34.2%、25.2%）、「利根川の周辺河川のはん濫や堤防の決壊による被害で、2週間くらい水が引かないことが想定されていること」（27.8%、21.5%）、「荒川首都圏広域はん濫による被害で、浸水区域内人口が120万人と想定されていること」（22.1%、17.2%）について江東5区での認知度の方が高いという結果になった。

23区と多摩地域での比較においても同じ項目、すなわち「東京東部（墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区）は大部分がゼロメートル地帯であること」（23区内：58.9%、23区外：49.1%）「荒川の周辺河川のはん濫や堤防の決壊による被害で、2週間くらい水が引かないことが想定されていること」（29.4%、23.1%）「利根川の周辺河

川のはん濫や堤防の決壊による被害で、2週間くらい水が引かないことが想定されていること」(24.6%、19.9%)、「荒川首都圏広域はん濫による被害で、浸水区域内人口が120万人と想定されていること」(19.5%、16.1%)について、23区での認知度の方が高い結果となった。これらから、居住地の水害リスクが高いと水害の被害想定の内容についての認知度が高い項目があるという関係性が分かった。



(χ^2 検定 ***: $p < .001$ 、 **: $p < .01$ 、 *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図 2.1.4 被害想定の詳細についての知名度(江東5区とそれ以外)(複数回答)

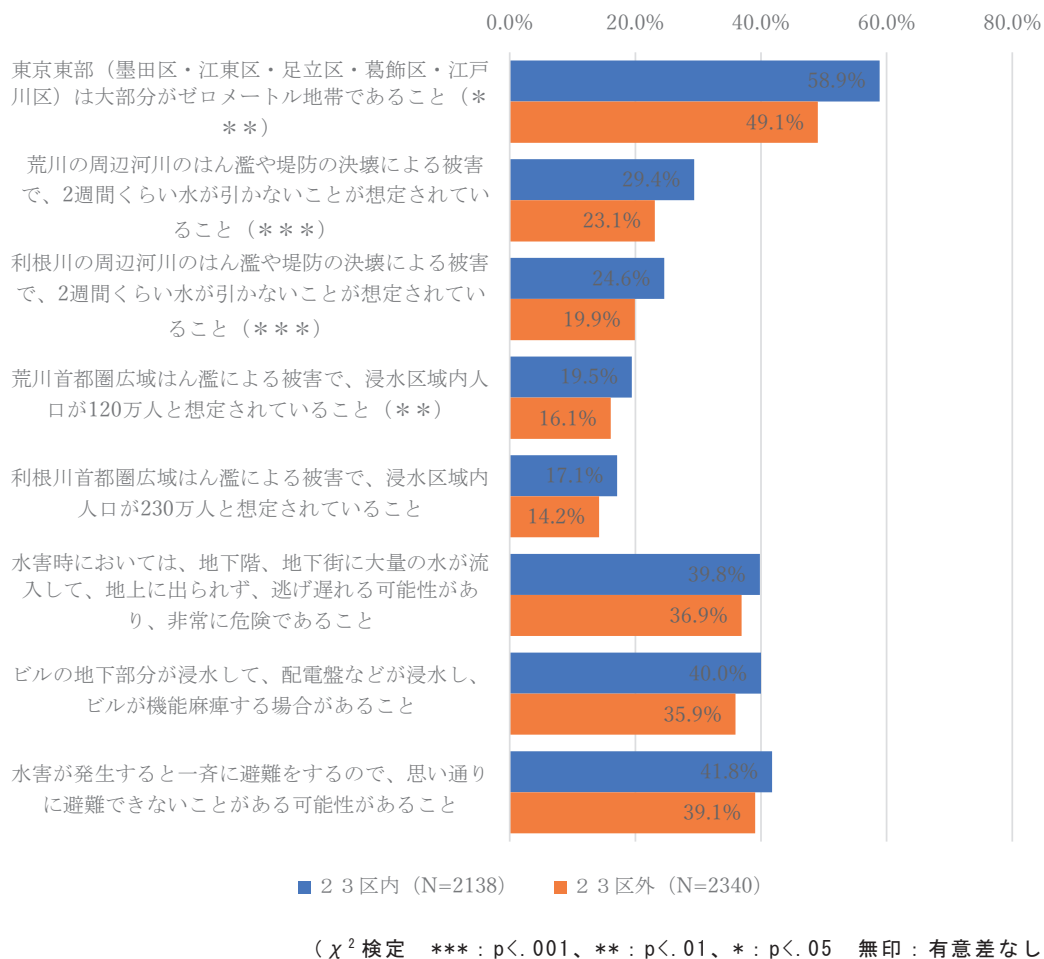


図 2.1.5 被害想定の詳細についての知名度（23区とそれ以外）（複数回答）

2.2 被害想定印象

(1) 概要

次に、図2.2.1のような被害想定に関する記述を掲示したうえで、被害想定に関して、どう思っているかについて聞いた（図2.2.2、図2.2.3）。「被害想定を知って非常に不安な気持ちになった」という人は3割強であった（江東5区内：33.1%、江東5区外：31.5%、23区内：32.3%、23区外：31.1%）。「想定を上回る被害を懸念している」という人も2割程度（江東5区内：24.2%、江東5区外：21.7%、23区内：23.2%、23区外：20.7%）と一定数みられた。

大規模水害の被害想定に関する以下の記述を読んだ上で、質問にお答えください。

- ・東京東部（墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区）は大部分がゼロメートル地帯である
- ・周辺河川のはん濫や堤防の決壊による被害で、2週間くらい水が引かないことが想定されている地域がある
- ・河川のはん濫による被害で、浸水区域内人口が120万人～230万人と想定されている地域がある
- ・水害時においては、地下階、地下街に大量の水が流入して、地上に出られず、逃げ遅れる可能性があり、非常に危険である
- ・ビルの地下部分が浸水して、配電盤などが浸水し、ビルが機能麻痺する可能性がある
- ・水害が発生すると一斉に避難をするので、思い通りに避難できないことがある可能性がある

図 2.2.1 被害想定に関する記述

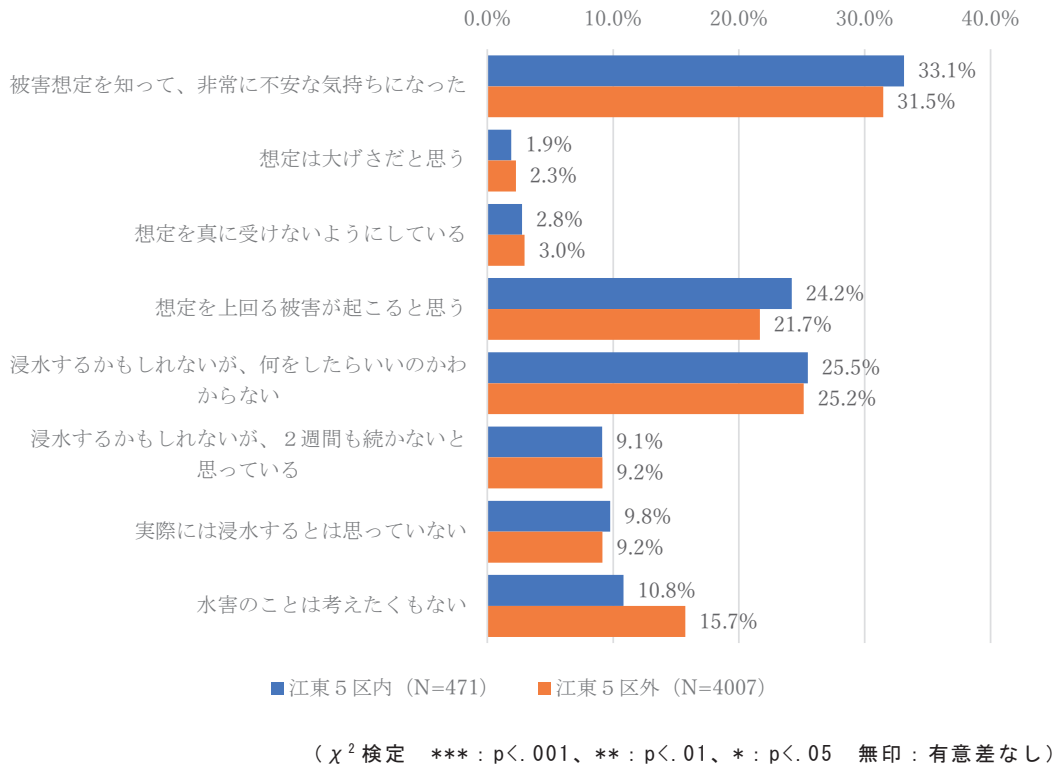
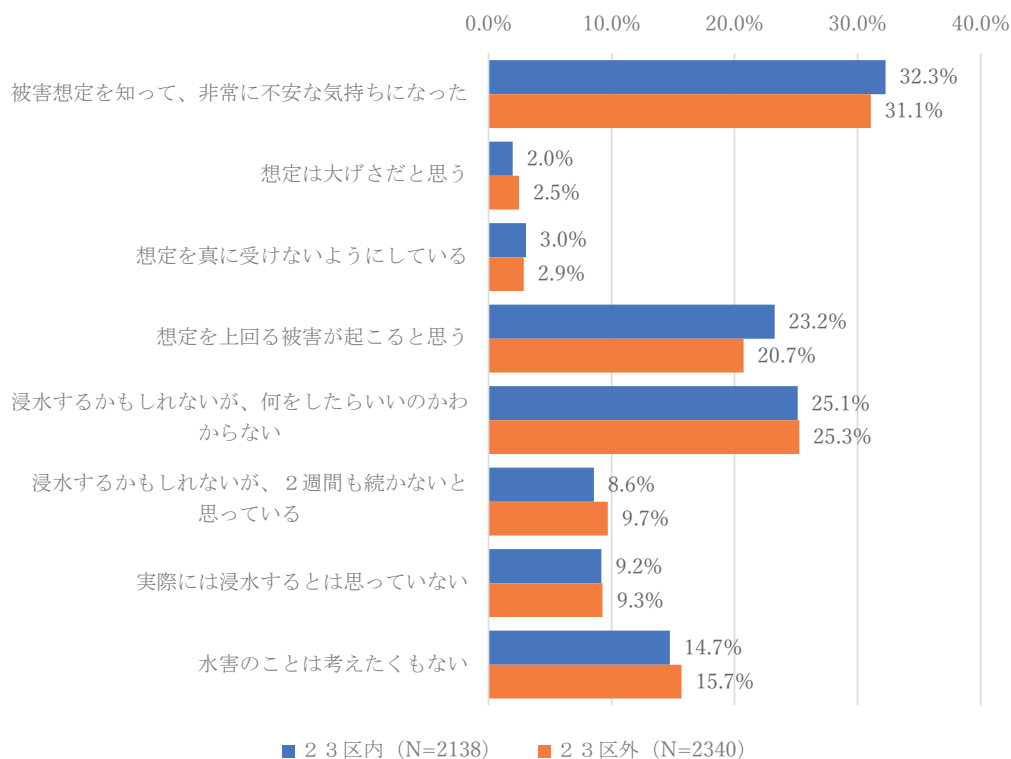


図 2.2.2 被害想定を知ってどう思ったか（江東5区とそれ以外）（複数回答）



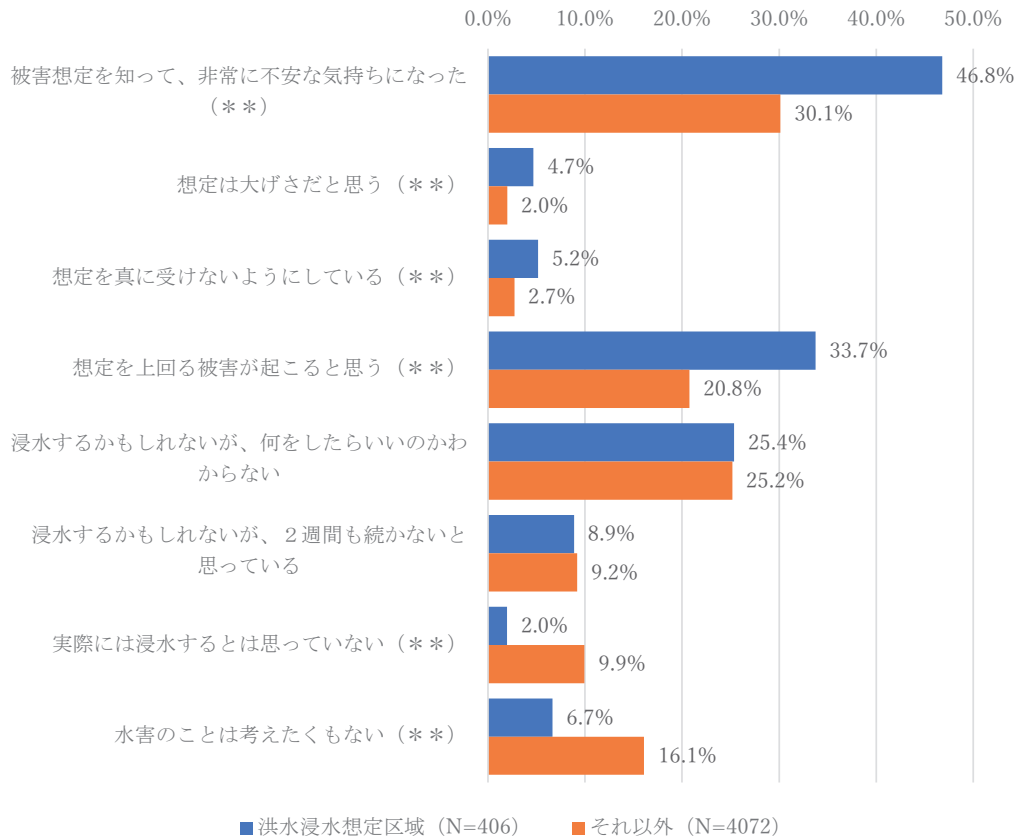
(χ^2 検定 ***: $p < .001$ 、** : $p < .01$ 、* : $p < .05$ 無印 : 有意差なし)

図 2.2.3 被害想定を知ってどう思ったか（23区とそれ以外）（複数回答）

(2) 洪水浸水想定区域での浸水想定のかえ方

次に、アンケートにおいて「自宅が洪水浸水想定区域」であると回答した人の浸水想定のかえ方について検討した（図 2.2.4）。その結果、「被害想定を知って、非常に不安な気持ちになった」（洪水浸水想定区域 46.8%、30.1%）、「想定は大きすぎだと思う」（4.7%、2.0%）、「想定を真に受けたくないようになっている」（5.2%、2.7%）、「想定を上回る被害を受けると思う」（33.7%、20.8%）、「実際には浸水するとは思っていない」（2.0%、9.9%）、「水害のことは考えたくない」（6.7%、16.1%）の 6 項目で有意差が出た（ χ^2 検定 $p < 0.01$ ）。

「浸水するかもしれないが、何をしたらいいのかわからない」の項目について、23区と多摩地域での比較、江東5区とそれ以外の市区町村で比較しても有意差は出なかった。すなわち、浸水のリスクの高い地域であっても、低い地域であっても、どう動けばよいかわからないという問題は共通していることが分かる。



(χ^2 検定 ***: $p < .001$, **: $p < .01$, *: $p < .05$ 無印: 有意差なし)

図 2.2.4 被害想定を知ってどう思ったか（洪水浸水想定区域とそれ以外）（複数回答）

(3) 自宅の浸水に対する不安

次に、自宅付近が浸水すると想像したときの不安感について問うた。江東5区とそれ以外、23区とそれ以外を比較しても差は出なかった（図 2.2.5、図 2.2.6）。「とても不安になる」（江東5区内：35.2%、江東5区外：33.9%、23区内：34.5%、23区外：33.6%）、「不安になる」（48.2%、46.8%、47.4%、46.6%）の2項目を合わせた割合が8割近くとなった。

自宅が洪水浸水想定区域であるか否かで分類した場合、洪水浸水想定区域に住んでいる人の「とても不安になる」と回答した割合が多くなった（図 2.2.5）。「とても不安になる」と「不安になる」を合わせた割合は、洪水浸水想定区域で 93.6%、それ以外の地域で 79.8%となった。自宅付近の浸水を想像した場合の不安感が、住居の浸水リスクとどのような関係性にあるのかは今後より深い検討が必要である。

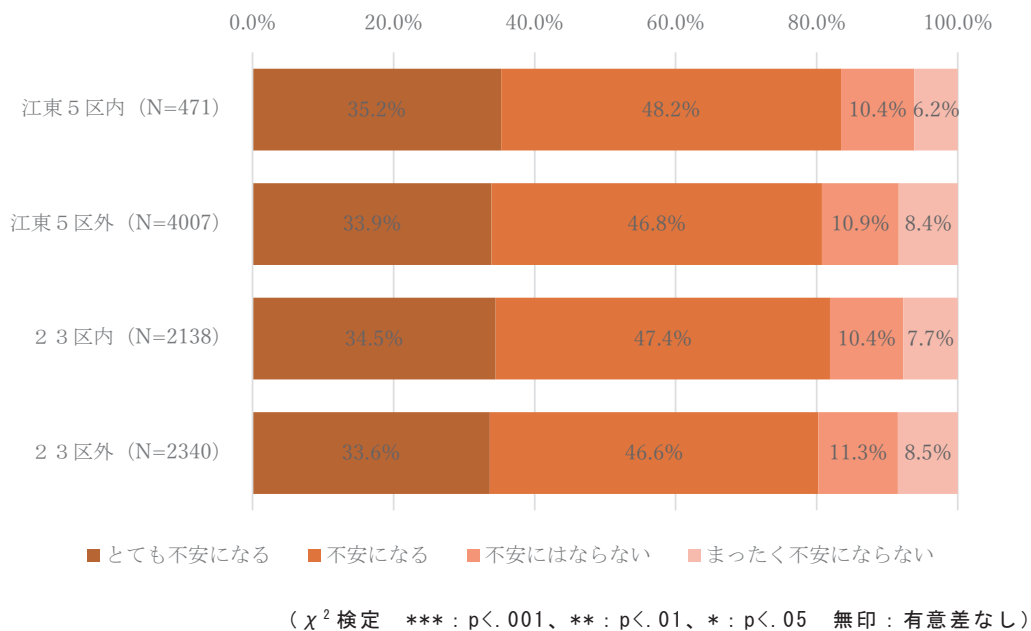


図 2.2.5 自宅付近が浸水すると想像したとき、どのような気持ちになるか
(上 : 江東5区とそれ以外、下 : 23区とそれ以外)

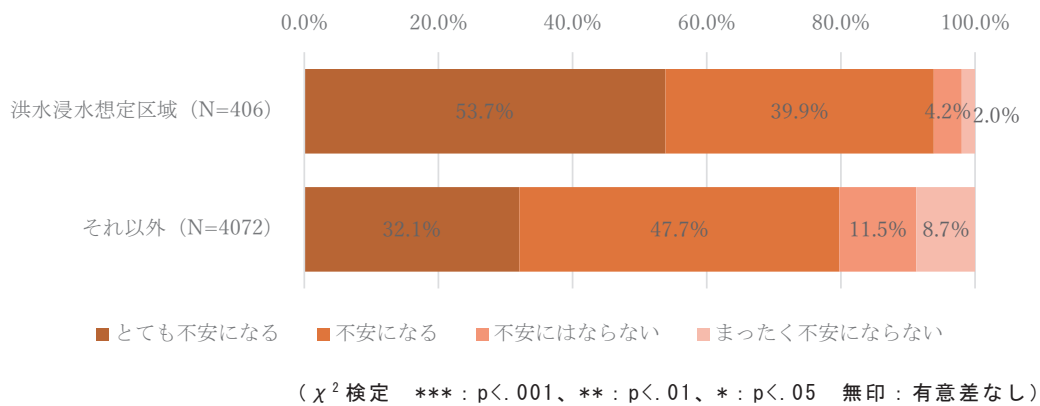


図 2.2.6 自宅付近が浸水すると想像したとき、どのような気持ちになるか (洪水浸水想定区域とそれ以外) ***

3 水害への備え

3.1 家庭での水害対策

2.2 で被害想定を知っても何をすればよいかわからないという人が一定数いるということが明らかになった。次に、現時点では家庭レベルでどのような水害対策をしているかについて問うた（図 3.1.1）。

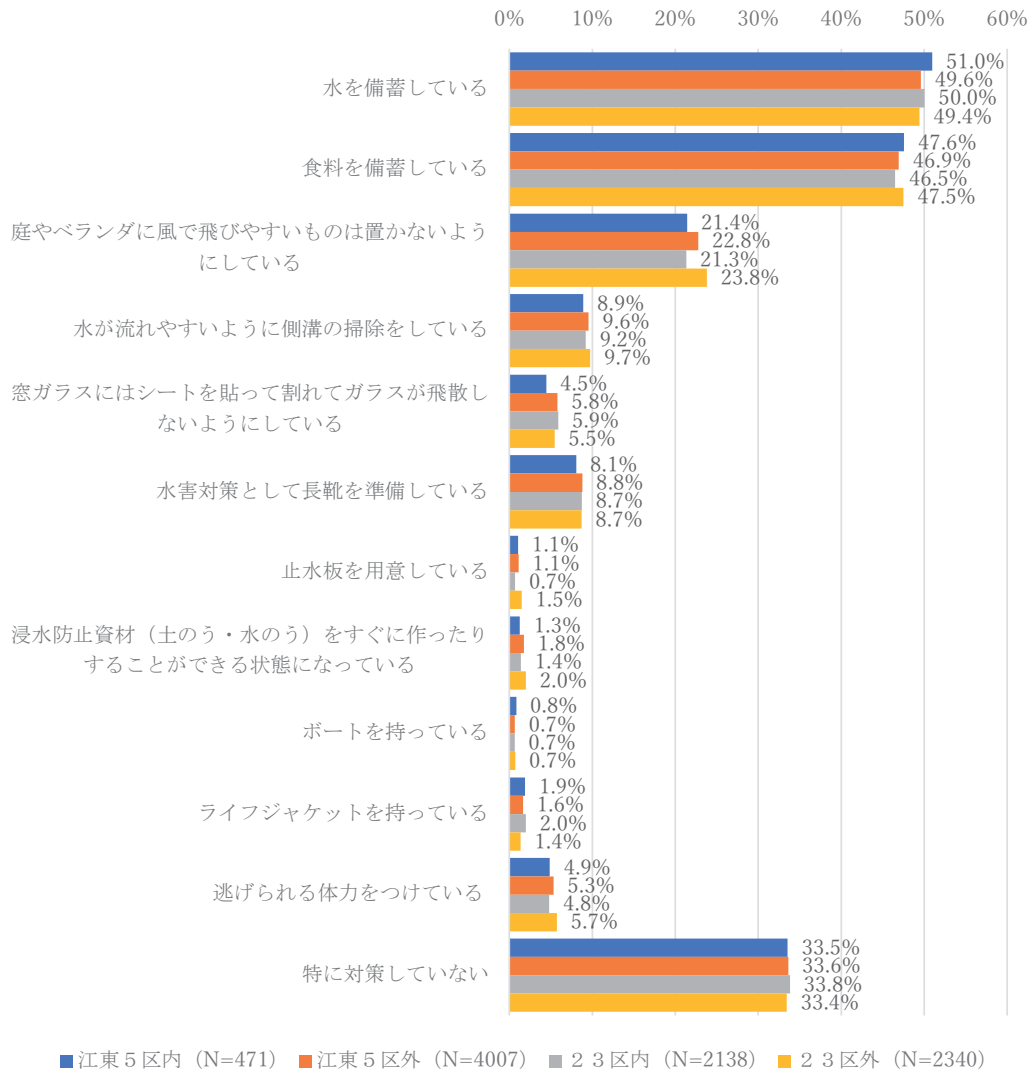


図 3.1.1 台風や浸水による被害を防ぐために自宅やマンションでの対策を行っているか（複数回答）

「水を備蓄している」（江東5区内：51.0%、江東5区外：49.6%、23区内：50.0%、23区外：49.4%）と「食料を備蓄している」（江東5区内：47.6%、江東5区外：46.9%、23区内46.5%、23区外47.5%）がともに5割弱と最も割合が高く、「庭やベランダに風で飛びやすいものは置かないようにしている」（江東5区内：21.4%、江東5区外：22.8%、23区内：21.3%、23区外：23.8%）というのも2割程度いた。一方で「特に対策していない」（江東5区内：33.5%、江東5区外：33.6%、23区内：33.8%、23区外：33.4%）という回答も3割強あった。

さらに、大規模水害が発生し、自宅周辺が長時間浸水して通勤・通学が困難になったときの備えについて問うた（図3.1.2）。「何も準備できていない」「何を準備すればいいのかわからない」という回答の割合が合わせて半数を超え、「住んでいる自治体を離れた避難先の想定など対策を考えている」のは1割未満となっている。

自宅での水害対策についても、大規模水害への備えについても、まだ多くの人ができているとは言えない状況である。

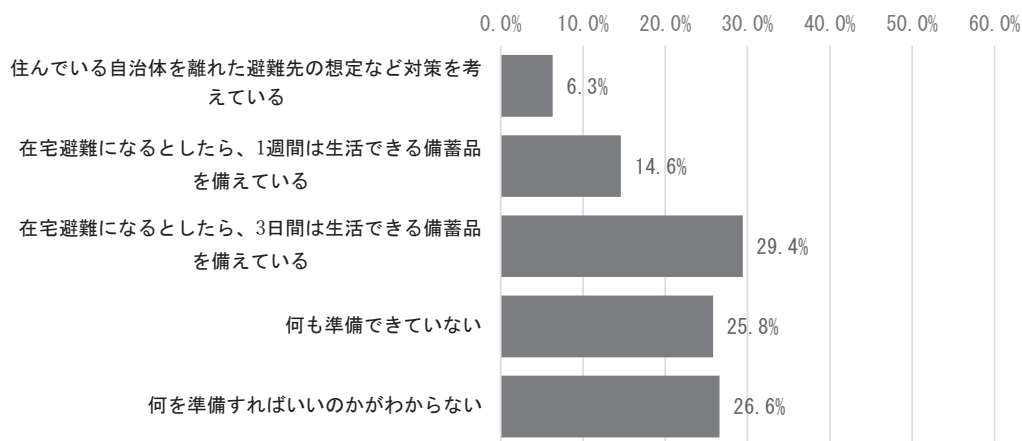


図 3.1.2 自宅周辺が長時間浸水し、通勤・通学が困難になるような大規模な水害が発生した場合に備えた対策を行っているか（N=4478）（複数回答）

3.2 避難の想定

住んでいる地域で水害が発生し、浸水が継続し続けそうな場合自宅を離れて避難すると思うかどうか、場合ごとで問うた（図3.2.1）。「避難すると思う」「たぶん避難すると思う」と回答した割合がどの場合でも過半数を占めた。特に、「自分や家族の仕事や学校が休みの場合」以外の項目では「避難すると思う」「たぶん避難すると思う」と回答した割

合が7割近くから8割に達していた。ここで注意すべきは、「避難すると思う」「たぶん避難すると思う」と回答した人が必ずしも実際の場面で避難するかどうかはわからないということである。

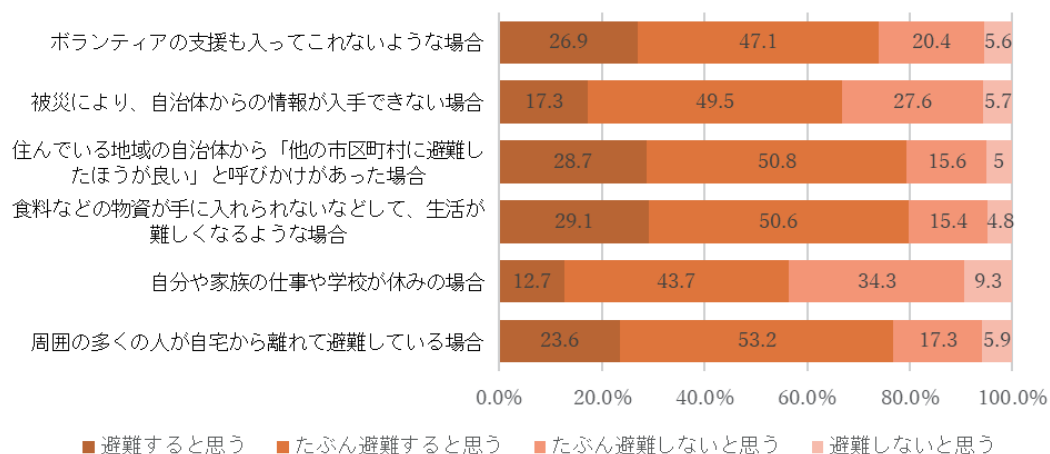


図 3.2.1 あなたの住んでいる地域で水害が発生し、浸水が継続し続けそうな場合、自宅を離れて避難すると思いますか（各ケース毎 N=4478）

また、東京都内で水害の可能性があると報道されたときの避難するタイミングについてまとめた（図 3.2.2）。警戒レベル4の避難指示が出たときが最も避難しようと思う回答が多いタイミングであった。「自宅が安全だと思っているので、避難はしない」や「行政からの情報ではなく、実際に河川があふれているのを確認したとき」という行政からの情報に関係なく避難するか否かを判断する、また、行政からの情報を受けても、「警戒レベルなどの用語の意味がよくわからないのでいつ避難すれば良いかわからない」という回答が合わせて3割程度を占め、行政からの情報が避難のタイミングに影響を及ぼしていない層が3割程度存在しているということが明らかになった。

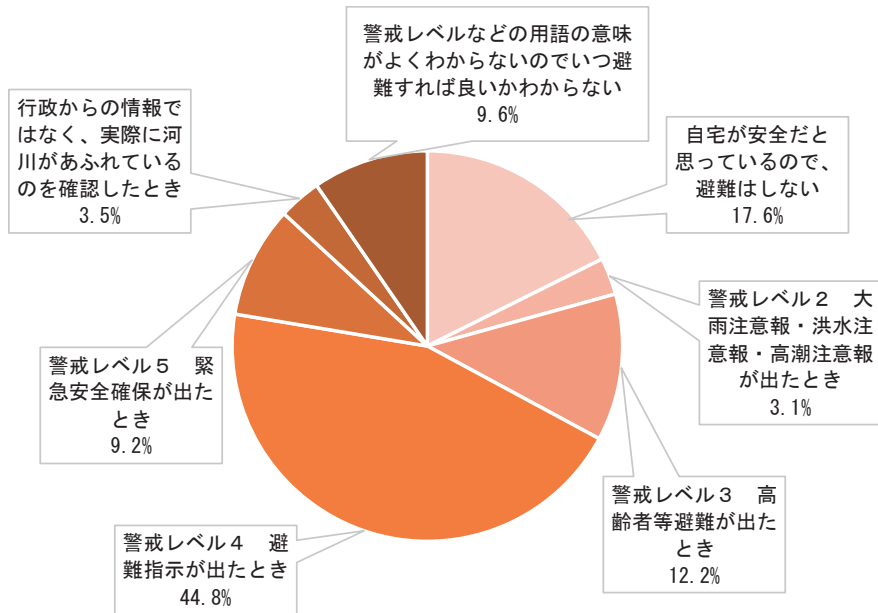


図 3.2.2 仮に、東京都内で水害の可能性があると報道された時、どのタイミングで避難しようと思うか (N=4478)

3.3 ハザードマップ

続いて、ハザードマップで確認する事項を問うた結果が以下の図 3.3.1 である。自宅周辺や避難所について見ていることが多いということが分かった。また、「ハザードマップを見たことがない」という回答が2割以上となった。

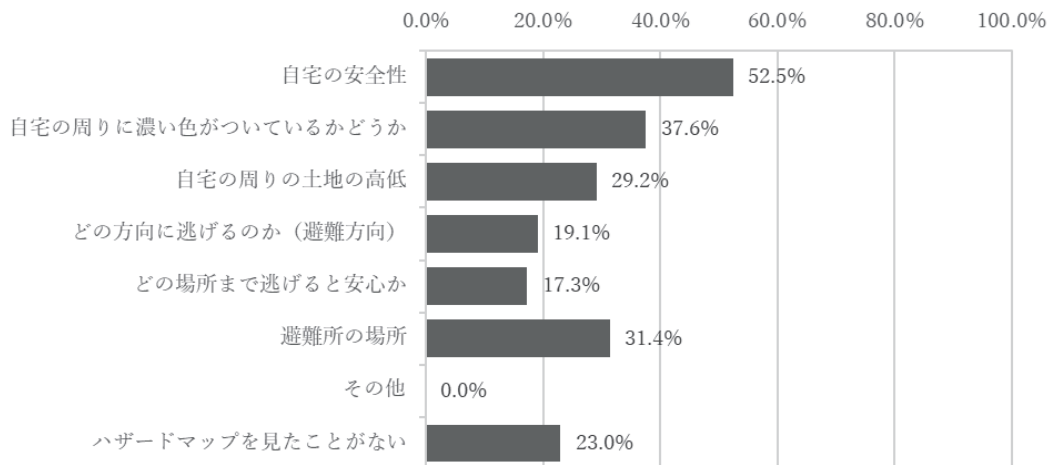


図 3.3.1 水害のハザードマップで確認する項目 (N=4478) (複数回答)

図 3.3.1 で「ハザードマップを見たことがない」と回答した人を除いた、水害のハザードマップを見たことがある 3448 サンプルに対して、水害に関するハザードマップを見てどう思ったかを問うた（図 3.3.2）。その結果、「自宅の周りは水害・土砂災害の可能性のある区域であり、不安に思った」（15.7%）、「自宅の周りが水害・土砂災害の可能性のある区域であることはわかったが、どのように避難すればよいかわからず、不安に思った」（9.3%）、「自宅の周りは水害・土砂災害の可能性のある区域ではなさそうだが、近くに水害・土砂災害の可能性のある区域があり、不安に思った」（15.1%）と不安に思った割合は 1 割前後となった。対して「自宅の周りは水害・土砂災害の可能性のある区域であったが、不安には思わなかった」という人も 1 割ほどいた。

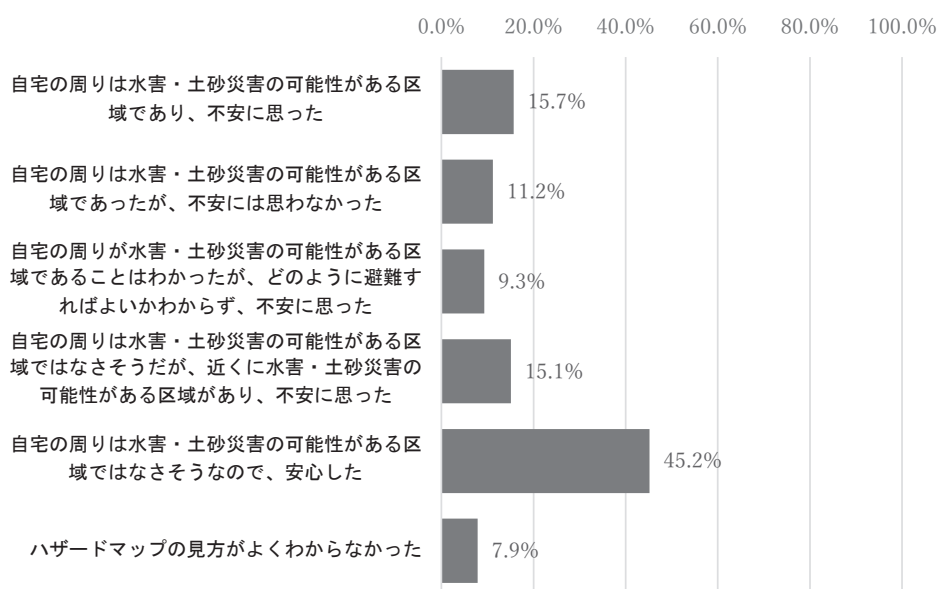


図 3.3.2 ハザードマップを見て思ったこと
（水害・土砂災害の可能性のある区域 N=3448）（複数回答）

4 まとめ

本調査により分かったことをまとめる。内閣府が出している水害の被害想定は、そもそも発表していることを知っている人が3割しかおらず、被害想定の詳細もまた知られていないということが明らかとなった。さらに、被害想定を見たことによって不安な気持ちになる人が多い一方で浸水するかもしれないと思いながらも何をすればよいかわからないという人も一定数いるという、被害想定から人々が受ける認識についても明らかになった。

水害への備えについて、食料や水の備蓄をしているという人は5割程度いたが、大規模な水害に対して避難先の想定などの対策を考えているという人は1割未満であった。また、どのように準備すればよいかわからないという人も2割程度いた。

避難のタイミングについて、自宅周辺が浸水した場合、周囲が避難していたり、自治体からの指示が出ていたりする状況では避難すると思っている人が7割近くいた。

各家庭に配られるハザードマップは認知度が高い。ハザードマップでは自宅の安全性を確認するという割合が多く、ハザードマップで自宅周辺に水害・土砂災害危険性があるということを知ると不安になるという人が4割以上存在し、また、対策として何をすればよいかわからないという人が多くいた。居住地域の安全性、危険性を知らせたうえで、どのように対策すべきかについても伝えていく必要がある。

さらに、居住地の水害リスクが高い地域において、被害想定の詳細について、項目によっては認知度が高いことが分かった。また、被害想定を知ったうえで、被害想定が過大評価だと考えるのは1割未満で、被害想定が過小評価だと考えるのは2割強という結果になった。さらに、被害想定を知って水害について何も考えたくないと思っている人は水害リスクが高い地域よりもそうでない地域に多いことが分かった。

以上により、居住地の水害リスクにかかわらず、水害についての意識も低いという現状が判明した。さらなる調査により、生活圏の水害リスクと水害に対する認識との関係性を解明し、地域ごとの水害に対する認識をどう変えていくべきかについて明らかになることが期待される。

附属資料 単純集計の結果（該当部分の抜粋）

(SA)【調査1】SC2. あなたのお住まいの市区町村をお答えください。

		実数	%
	全体	4478	100.0
1	千代田区	83	1.9
2	中央区	88	2.0
3	港区	94	2.1
4	新宿区	97	2.2
5	文京区	89	2.0
6	台東区	86	1.9
7	墨田区	90	2.0
8	江東区	93	2.1
9	品川区	98	2.2
10	目黒区	94	2.1
11	大田区	96	2.1
12	世田谷区	97	2.2
13	渋谷区	92	2.1
14	中野区	91	2.0
15	杉並区	94	2.1
16	豊島区	93	2.1
17	北区	92	2.1
18	荒川区	88	2.0
19	板橋区	100	2.2
20	練馬区	95	2.1
21	足立区	98	2.2
22	葛飾区	91	2.0
23	江戸川区	99	2.2
24	八王子市	98	2.2
25	立川市	94	2.1
26	武蔵野市	94	2.1
27	三鷹市	87	1.9
28	青梅市	89	2.0
29	府中市	93	2.1
30	昭島市	83	1.9
31	調布市	95	2.1
32	町田市	90	2.0
33	小金井市	86	1.9
34	小平市	90	2.0
35	日野市	93	2.1
36	東村山市	92	2.1
37	国分寺市	92	2.1
38	国立市	84	1.9
39	福生市	76	1.7
40	狛江市	85	1.9
41	東大和市	88	2.0
42	清瀬市	87	1.9
43	東久留米市	92	2.1
44	武蔵村山市	77	1.7
45	多摩市	91	2.0
46	稲城市	87	1.9
47	羽村市	65	1.5
48	あきる野市	82	1.8
49	西東京市	94	2.1
50	瑞穂町	33	0.7
51	日の出町	20	0.4
52	檜原村	0	0.0
53	奥多摩町	3	0.1
54	大島町	0	0.0
55	利島村	0	0.0
56	新島村	0	0.0
57	神津島村	0	0.0
58	三宅村	0	0.0
59	御蔵島村	0	0.0
60	八丈町	0	0.0
61	青ヶ島村	0	0.0
62	小笠原村	0	0.0

(SA)【調査1】Q33. あなたの住んでいるところは、大規模水害で浸水しますか。

全体		実数	%
		4478	100.0
1	戸建てやアパートに住んでいて、浸水しない	1297	29.0
2	戸建てやアパートに住んでいて、浸水するが	522	11.7
3	戸建てやアパートに住んでいて、最上階まで	93	2.1
4	マンションなどの集合住宅に住んでいて、浸	874	19.5
5	マンションなどの集合住宅に住んでいて、建	486	10.9
6	マンションなどの集合住宅に住んでいて、自	117	2.6
7	マンションなどの集合住宅に住んでいて、最	30	0.7
8	どのくらい浸水するか、わからない	1059	23.6

(MA)【調査1】Q34. あなたの自宅や住んでいるマンションは、洪水等による浸水想定区域の範囲内ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体		実数	%
		4478	100.0
1	洪水浸水想定区域である	405	9.0
2	家屋倒壊等はん蓋想定区域である	162	3.6
3	わからないが範囲内だと思う	581	13.0
4	範囲外である	1799	40.2
5	わからない	1572	35.1

(SA)【調査1】Q38. あなたは、内閣府が荒川・利根川が大規模にはん蓋した際の被害想定を発表していることを知っていますか。

全体		実数	%
		4478	100.0
1	知っている	1493	33.3
2	知らない	2985	66.7

(SA)【調査1】Q39. あなたは、大規模水害の被害想定について、以下のことを知っていますか。それぞれについて、一つずつお答えください。

		全体	知っている	知らない	意味がよくわからない	
調査1] Q39項	東京東部（墨田区・江東区・足立区・葛飾区	%	100.0	53.8	39.2	7.0
		実数	4478	2407	1756	315
調査1] Q39項	荒川の周辺河川のはん蓋や堤防の決壊による	%	100.0	26.1	67.2	6.7
		実数	4478	1169	3008	301
調査1] Q39項	利根川の周辺河川のはん蓋や堤防の決壊によ	%	100.0	22.2	70.6	7.3
		実数	4478	992	3160	326
調査1] Q39項	荒川首都圏広域はん蓋による被害で、浸水区	%	100.0	17.7	74.9	7.4
		実数	4478	792	3355	331
調査1] Q39項	利根川首都圏広域はん蓋による被害で、浸水	%	100.0	15.6	77.0	7.4
		実数	4478	699	3449	330
調査1] Q39項	水害時においては、地下階、地下街に大量の	%	100.0	38.3	54.9	6.8
		実数	4478	1715	2459	304
調査1] Q39項	ビルの地下部分が浸水して、配電盤などが浸	%	100.0	37.9	55.0	7.1
		実数	4478	1696	2462	320
調査1] Q39項	水害が発生すると一斉に避難をするので、思	%	100.0	40.4	52.6	7.0
		実数	4478	1807	2356	315

(MA)【調査1】Q40. 上記のような被害想定について、あなたはどのように思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体		実数	%
		4376	100.0
1	被害想定を知って、非常に不安な気持ちにな	1417	32.4
2	想定は下げさだと思う	100	2.3
3	想定を真に受けられないようにしている	132	3.0
4	想定を上回る被害が起こると思う	982	22.4
5	浸水するかもしれないが、何をしたらいいの	1128	25.8
6	浸水するかもしれないが、2週間も続かない	410	9.4
7	実際には浸水するとは思っていない	413	9.4
8	水害のことは考えたくもない	682	15.6

(SA)【調査1】Q41. 自宅付近が浸水すると想像したとき、あなたはどのような気持ちになりますか。

全体		実数	%
		4478	100.0
1	とても不安になる	1524	34.0
2	不安になる	2104	47.0
3	不安にはならない	486	10.9
4	まったく不安にならない	364	8.1

(SA) 【調査2】 Q12. では次に、仮に、東京都内で水害の可能性がある」と報道された時、どのタイミングで避難しようと思いますか。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	自宅が安全だと思っているので、避難はしない	790	17.6
2	警戒レベル2 大雨注意報・洪水注意報・高	137	3.1
3	警戒レベル3 高齢者等避難が出たとき	545	12.2
4	警戒レベル4 避難指示が出たとき	2004	44.8
5	警戒レベル5 緊急安全確保が出たとき	414	9.2
6	行政からの情報ではなく、実際に河川があふ	158	3.5
7	警戒レベルなどの用語の意味がよくわからな	430	9.6

(SA) 【調査2】 Q15. あなたの住んでいる地域で水害が発生し、浸水が継続し続けそうな場合、自宅を離れて避難すると思いますか。下記のケースごとに、それぞれ一つずつお答えください。

		全体	避難すると思	たぶん避難すると思	たぶん避難しないと思	避難しないと思
【調査2】 Q15項目1	周囲の多くの人が自宅から離れて避難している場合	%	100.0	23.6	53.2	17.3
		実数	4478	1058	2383	773
【調査2】 Q15項目2	自分や家族の仕事や学校が休みの場合	%	100.0	12.7	43.7	34.3
		実数	4478	567	1958	1535
【調査2】 Q15項目3	食料などの物資が手に入れられないなどして、生活が難しくなるような場合	%	100.0	29.1	50.6	15.4
		実数	4478	1303	2268	691
【調査2】 Q15項目4	住んでいる地域の自治体から「他の市区町村に避難したほうが良い」と呼びかけがあった場合	%	100.0	28.7	50.8	15.6
		実数	4478	1284	2275	697
【調査2】 Q15項目5	被災により、自治体からの情報が入手できない場合	%	100.0	17.3	49.5	27.6
		実数	4478	773	2217	1234
【調査2】 Q15項目6	ボランティアの支援も入ってこれないような場合	%	100.0	26.9	47.1	20.4
		実数	4478	1204	2109	912

(MA) 【調査2】 Q17. あなたは、台風や浸水による被害を防ぐために自宅やマンションでの対策を行っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	水を備蓄している	2227	49.7
2	食料を備蓄している	2105	47.0
3	庭やベランダに風で飛びやすいものは置かない	1013	22.6
4	水が流れやすいように側溝の掃除をしている	425	9.5
5	窓ガラスにはシートを貼って割れてガラスが	254	5.7
6	水害対策として靴を準備している	391	8.7
7	止水板を用意している	50	1.1
8	浸水防止資材（土のう・水のう）をすぐに作	77	1.7
9	ボートを持っている	31	0.7
10	ライフジャケットを持っている	75	1.7
11	逃げられる体力をつけている	237	5.3
12	特に対策していない	1505	33.6

(MA) 【調査2】 Q18. あなたは、自宅周辺が長時間浸水し、通勤・通学が困難になるような大規模な水害が発生した場合に備えた対策を行っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	住んでいる自治体を離れた避難先の想定など	284	6.3
2	在宅避難になるとしたら、1週間は生活できる	655	14.6
3	在宅避難になるとしたら、3日間は生活できる	1315	29.4
4	何も準備できていない	1156	25.8
5	何を準備すればいいのかわからない	1193	26.6

(MA) 【調査2】 Q19. あなたは水害のハザードマップを見て、どのようなことを確認しますか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		4478	100.0
1	自宅の安全性	2351	52.5
2	自宅の周りに濃い色がついているかどうか	1685	37.6
3	自宅の周りの土地の高低	1306	29.2
4	どの方向に逃げるのか（避難方向）	856	19.1
5	どの場所まで逃げると安心か	774	17.3
6	避難所の場所	1404	31.4
7	その他	1	0.0
8	ハザードマップを見たことがない	1030	23.0

(MA) 【調査2】 Q19a. 水害に関するハザードマップをみて、どう思いましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

		実数	%
全体		3448	100.0
1	自宅の周りは水害・土砂災害の可能性がある	540	15.7
2	自宅の周りは水害・土砂災害の可能性はある	386	11.2
3	自宅の周りが水害・土砂災害の可能性はある	319	9.3
4	自宅の周りは水害・土砂災害の可能性はある	521	15.1
5	自宅の周りは水害・土砂災害の可能性はある	1559	45.2
6	ハザードマップの見方がよくわからなかった	271	7.9